

「江の島紀行(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

同じ学年の同僚と私の一行五人で、江の島に行ってきました。3学期に予定されている、「卒業遠足」の下見のためだ。「みんなが楽しめて、思い出をつくれる場所」として、6年生の子どもたちが候補にあげたのは4か所。「日光」「秩父」「小田原」「鎌倉・江の島」だ。投票の結果、「鎌倉・江の島」に決まったのだ。

遠足に限らず学校での活動は、教師が「ここに行きます、こんな活動をします」と決めて、それを子どもたちに提案したほうが楽である。しかし今年度の6年生では、さまざまな活動の計画を、できる限り子どもたち自身に考えさせてきた。今回の「卒業遠足」もその方針に変わりはない。

ただ、今後子どもたちが、この地域でどんな活動を考えていくのかを、完全に予測するのは困難だ。鎌倉・江の島地域の要所要所を下見して、どんなポイントがあるのか、どんな留意事項があるのか、トイレや休憩場所の有無などを確認するのが目的である。



下見は二手に分かれて行った。私の班は9時に大船駅に集合だ。私は池袋駅から「湘南新宿ライン」のグリーン車に乗った。JR系のクレジットカードで買い物や公共料金の支払いをすると、一か月分の「ポイント」を普通列車のグリーン券何枚かと交換できるのだ。せっかく湘南まで行くのでこのポイントを活用してみた。平日の朝7時台だったので、宇都宮から到着した電車は混雑していたが、グリーン車は楽に座れた。

もともと横須賀線や東海道線(湘南電車)の東京口近郊電車には、2両のグリーン車が連結されていた。これは戦前からの二等車・三等車連結の踏襲である。その後、総武線との直通運転、湘南新宿ライン、上野東京ライン、常磐線、中央線(近年中に連結予定)と、グリーン車連結列車は増え続けている。



普通列車のグリーン車は、リクライニングシート、テーブル、トイレ・洗面所と、設備は特急列車並みで、ロングシート、大混雑の普通車との格差が非常に大きい。平日は一回700円もかかるので、毎日乗るには大きな出費だが、月に一回ぐらい、しかもためたポイントで乗れるのだから、許される贅沢だろう。

領収書	
2019/12/26(木) 08:43:33	
<交通系IC> [売上票(支払)]	
加盟店名	※新) ミックスナッツ 4901325223890
普通グリーン車車内販売(新宿)	1点×¥320 ¥320
03-5322-4605	※お〜いお茶緑茶350P 4901085098455
売場:	係員: 1点×¥150 ¥150
伝票番号	01965
店舗端末ID	JE10710963596
端末番号	55642-336-40027
ご利用日	2019/12/26 08:43:25
ICカード情報	小計 ¥470
カード番号	△計 ¥470
ご利用額	□計 ¥470
カード残高	(消費税等(内税) 8% ¥34)
	(対象計 8% ¥470)
	(消費税等(内税) 10% ¥0)
	(対象計 10% ¥0)
	電子マネー ¥470
	お釣り ¥0
	注) ※印は軽減税率(8%)適用商品
お客様控え	1000
	新宿グリーンアテンダントセンター

普通列車のグリーン車には、「グリーンアテンダント」と呼ばれる乗務員が必ずいて、検札や空席の案内をしている。車内販売もしていて、飲み物や簡単なスナック菓子などを持って座席まで来る。新幹線での社内販売までもが廃止される中、驚きのサービスだ。私は「車内販売の消費税率」に興味があって、いくつか買ってみた。8%だった。その場(座席)で飲食しても「持ち帰り」という扱いになっているようだ。